2　沿線でつながろう！

～地図で見るとなり街のボランティア～

○開催目的

「最寄り駅は隣の区だけど、どっちのボランティアセンターに相談したらいいの……？」

「通学・通勤途中の方がボランティアしやすいなあ……」

人口が密集している都市部では、人びとの生活圏と行政境とが一致しないボランティアの課題があります。この分科会では生活圏と行政境をまたぐ鉄道に注目し、地図を見ながら沿線におけるボランティアのマッチングのしくみを考えます。

○開催日時

２月 12 日（金）19：00 ～ 21：00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：25 名（参加者 14 名、出演者 7 名、スタッフ 4 名）

出演者：市川　徹さん（株式会社世田谷社）
阿部　恵美子さん（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
高橋　義博さん（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
前田　泉美さん（しぶやボランティアセンター）
柳澤　更沙さん（明治大学和泉ボランティアセンター）
戸田　絵津子さん（社会福祉法人世田谷ボランティア協会）
小原　恵美さん（社会福祉法人正吉福祉会）

○プログラム内容・成果と課題

1　参加者自己紹介

・各参加者の自己紹介、それぞれの活動地域で沿線グループ分け

2　沿線グループごとの課題出し

1）小田急線チーム

＊自宅と職場、どちらのエリアでボランティアを探すだろうか？
→つながっていく人はエリア関係なくつながっていくのでは
→地元を振り返ったとき、何ができるだろう？…知識・経験を生かしたい！
→この人たちを引き込めるような仕掛け、マッチングが必要

2）中央線・西武線チーム

＊「●●区ボラセン（＝ボランティアセンター）」となっていても、区外いろいろなとこ

ろから相談が来る
→エリアにこだわらずいろいろな情報を集めておく必要がある
→ボランティア活動を探すときもエリアを越えて探してはどうか

３）京王線チーム
＊沿線に住んでいる人は何がやりたいのだろうか？
→みんなに情報を届けるにはどうすればいいか？
→IT など情報収集ツールの活用…海外にはボランティア情報の地域一括管理ツールがある
→日本には情報のプラットフォームはいくつかあるが一括ではない

３　沿線グループごとの課題に対するアイデア出し

１）小田急線チーム
＊モヤモヤした人への窓口…「こんなことできる！」を見いだせる情報提供を
→受け入れ側の課題でも…せっかくつながった人をつなぎとめる方法とは
→気持ちを汲み取ってリピーターを増やす…うまくマッチできていないことも
→逆マッチングもありでは（「こんなことできる」人を受け入れ先が連れてくる）
＊情報をスーパーなどにも貼り出したらどうか
→オリンピックの情報システムに相乗りする
→たとえば、ある駅で降りたらその地域のボランティア情報が見られるとか

２）中央線・西武線チーム
＊区境でも近いところのセンターなどを案内している
→区境まつり・区境綱引きなどのイベントでお互いの交流を促してはどうか
→「不動産情報」のようにボランティア情報を探せるとよい
＊各駅にある情報ラックを活用させてほしい
→CSR 活動でどうか、ポスターも無料で貼らせてほしい

３）京王線チーム
＊SNS もいろいろありすぎて、何で発信したらよいかわからない
→LINE スタンプを活用（沿線ゆるキャラなどをセットにして）
→スタンプを入手した人には情報もお届けする（ボランティア・地域情報など）

４　次回に向けてのアイデア

＊情報をいろいろなところに発信する
→駅から始めてはどうか…駅の人と仲良くなる
→区のコミュニティバスに情報を掲載してはどうか
→スーパー・郵便局・銀行に情報を貼り出してみてはどうか
→病院などの待ち時間を利用してはどうか
＊具体的なアイデアを実現していくことが必要

→企業、ボラセンスタッフなどいろいろな人が集まる今日のような場がグッド
→いろいろな市区町村が一緒に情報を一括管理できるとよい
→地元自慢、ボラセン自慢をしながら、いろいろな人とつながっていければ

○参加者の声

- 「沿線」をキーワードに自己紹介ができて、面白かった。ボラセンの広報の必要性、ボランティアコーディネーターさんの力量も必要なんだなあ…と思いました。楽しかったです。
- ボラセン、活動者、受け入れ団体とそれぞれの視点、立場があるので落としどころが難しい。活動者の声を反映するのであれば継続して行い、結果や出口を明確に定めた方が良いと考えます（成果物を作る、発表する、計画するなど）。
- 「沿線」で、というよりは「行政の境」、というところでの悩みはあったので、周りの人と仲良くして広報を積極的にしようと思いました。

○担当者・記録

《担当》	市川	徹（沿線ボラセン交流会）
	阿部	恵美子（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
	高橋	義博（調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター）
	柳澤	更沙（明治大学和泉ボランティアセンター）
《運営サポート》	土屋	弦（明治大学 法学部）
	志田	五十鈴（こまえボランティア・センター）
《記録》	市川	徹（沿線ボラセン交流会）
	芦澤	弘子（聖学院大学ボランティア活動支援センター）